

重点取組名	千葉県香取西部地域におけるブランドかんしょ大栄「 ^{まなむすめ} 愛娘」創出への取組
普及活動担当	千葉県印旛農林振興センター振興普及部改良普及課
主要な活動地域・対象農業者	千葉県成田市（大栄・下総地区） JAかとり香取西部園芸部 甘藷部会 甘しょ育成研究会 78名
取組結果・成果 〈取組みのねらい〉	<p>1. 11月からの早期出荷を目指した食味向上対策 市場及び仲卸業者との話し合いによって、実需者に1日も早く「愛娘」を提供した方がよいとの考えから、今年度の出荷開始は前年度より1カ月早い11月に決定した。「愛娘」は慣行品種のベニアズマに比べて、デンプン含量が少なく、糖化が遅いため、早期出荷で食味を揃えるためには何らかの工夫が必要であった。 そこで、農林振興センターでは農業総合研究センターと協力し、①収穫時期、②貯蔵温度、③草勢とイモの食味の目安となる比重、デンプン含量との関係を明らかにし、11月出荷品の食味向上のための栽培及び貯蔵方法を提案した。 今年度は、全体の約5%に当たる15,000ケース(5kg箱)が11月出荷された。</p> <p>2. 販促活動強化に向けた研修会の実施と女性部「^{まな}愛ちゃん応援団」の立ち上げ 研究会では、昨年度からスーパー等の小売店において、女性生産者自らが店頭に立って販促活動を開始した。活動実施後に開催した反省会では、女性部組織化、接客の心構え習得、オリジナルレシピの開発等の意見が出された。 女性部の組織化に当たって、農林振興センターでは、販促活動等に積極的な生産者を対象に個別訪問し、役員を選定した。最初にこのメンバーで販促活動検討委員会を開催し、活動の方向性が話し合われ、これを受けて女性部「^{まな}愛ちゃん応援団」を結成した。 研修活動として、最初に外部講師を招き、販促活動の考え方を整理するための研修会を実施した後、①かんしょの基礎知識、②オリジナルレシピの検討、③接客方法と心構えを学習する研修会を独自で開催した。 今年度は、延べ24店舗で販促活動を実施し、焼き芋の他に会員が考案したオリジナルレシピの試食品を提供するとともに、家庭でも簡単に調理できる手書きレシピを配布した。</p> <p>3. ブランド価値を高める加工品の開発 農産物のブランドイメージを高めるには、農産物加工品の製造・販売が不可欠であることを役員会等で訴えた結果、県内の酒取扱業者の協力を得て「愛娘」焼酎を製造することが決定した。農林振興センターでは、研究会と酒造業者の仲介的な役割、酒取扱業者への産地及び商品の情報提供等を担った。今年度は、11月に3tの「愛娘」を仕込み、2月からはヌーボーものとして「みずひき愛娘」という商品名で千葉市内のデパートにおいて販売開始された。</p>
連携機関、協議会等	JAかとり JA全農ちば 千葉県農業総合研究センター 千葉県農業改良課
取組の特徴や取組に際しての工夫	<p>1. 生育期に当たる8月上旬と収穫前の9月下旬に、9～10人で1班を形成し各生産者の畑を巡回する圃場検討会を実施した。検討会では、定植時期ごとのかんしょの生育状況が解るようにデータを集計して、生産者に提示した。</p> <p>2. 早期出荷を目指した食味向上対策に関する調査では、圃場の選定や収穫調査は農林振興センターが、内容成分の分析は農業総合研究センターが分担した。</p> <p>3. 販促活動は普及指導員が生産者と一緒を実施することで、店舗や顧客の様子を観察するだけでなく、販売に対する女性生産者の態度や考え方を把握することに努めた。その結果、女性部立ち上げに向けて、前向きな議論ができる女性達で組織された検討委員会を発足できたため、その後の運営がスムーズに進んでいる。</p>

4. 愛ちゃん応援団の活動の中で、千葉市内のデパートにおいて青果「愛娘」と焼酎「みずひき愛娘」のコラボレーションによる販促活動を実施した。

【参考】



「愛ちゃん応援団」販促活動の様子



焼酎「みずひき愛娘」



「愛ちゃん応援団」会員が発案したお菓子「いもっちだんご」
外側はパリッと、中はおもちりが特長。